

宮城村特産品加工研究会おやき部会

夏季限定焼き菓子 「くるみちゃん」



焼きたての「くるみちゃん」と部会のみなさん

「問い合わせ先」
JA前橋市宮城支所 営農経済課
電話〇二七一一八三二二五〇二

宮城村特産品加工研究会おやき部会では、夏季限定の焼き菓子「くるみちゃん」の製造・販売を行っています。
おやき部会では、暑い日でも日持ちの良い無添加のお菓子として、この「くるみちゃん」を考案したものです。
「くるみちゃん」の中には、宮城村産の小豆「大納言」で作った「あん」が入っていて、くるみの香ばしさとあんの甘さがバランス良く、とても上品な味で、お茶の供に最高なお菓子です。
価格は、一パック五個入りで、三〇〇円と大変お手頃な価格で、村内の風の駅やげんじ、風の広場おまえだ、そして、ふれあいの郷農林産物直売所で販売しています。

交流村トピックス

第2回「353の集い」



第2回353の集いの様子

平成十六年七月十二日(月)、ぐんまフラワーパークの北にある、群馬県花とみどりの学習館において、赤城七六会(会長 前原孝至さん)主催による「第2回353の集い」が開催されました。

この353の集いは、国道353号線沿いの市町村の交流を目的に昨年から開催されているもので、今年「スローフードと地産地消での地域づくり」をテーマにして、基調講演とパネルディスカッションが行われました。

当日は、新潟県柏崎市や湯沢町など国道353号線沿いの各

地から約60名の方が参加し、講師やパネラーの意見に耳を傾けていました。
国道353号線は、群馬県桐生市と新潟県柏崎市を結ぶ道路です。時間をかけて各地の「食」文化に触れてみるのも楽しいかもしれません。

二つの宮城交流



どんぐりの森で説明を聞く足立宮城小のみなさん

平成十六年七月五日(月)、地名が同じ「宮城」ということで交流を行っている東京都足立区立宮城小学校の六年生が宮城村を訪れ、本村の六年生との交流会を行いました。

そして、両校の交流のシンボルである「どんぐりの森」で先輩が植樹したコナラやエノキの

生長観察や里山の自然観察を行いました。



校庭の広さにびっくり!!

赤城南麓交流村だより VOL.2

編集後記

▼夏と言えば必ずどこかのまちやむらでお祭りが行われています▼全国に名の知れているお祭りから小さな地区のまつりといろいろあります▼「ふるさと」意識というのでしょうか、その「まち」や「むら」そのものが祭りの舞台となり、そこに住む人が見えるところに面白さがあるような気がします▼今年の宮城村納涼祭も一面でお伝えしたとおり大盛況の内に終了しましたが、宮城村としては今年が最後の納涼祭です▼来年は?という声も聞かれましたが、七百人のだんべえ踊りを見てましたら、大丈夫だんべえと思ってしまうのも祭りなのかもしれません。